



地図



kou

はじまり

いつものように僕は本屋にいた。

雑誌を眺める流行好きの女子たち、情報を仕入れるビジネスマン、漫画コーナーで右往左往する学生、店内を駆け回る子供と注意をする主婦。

たくさんの人が、本の匂い、紙の質感に触れたいがために、五感を駆使する。

もしかしたらそうは思わないかもしれないが、無意識のうちに、いや、本能が僕らの体内外に働きかけているのかもしれない。

なぜなら人体には未だに謎が多く隠されているから。そして謎があるということは知らないことが多いということなのかもしれない。

その多くの謎を埋めるために様々な体験や経験をすることは重要だ。

世の中には過酷な経験をしていたり、成功を体験していたり、縦横無尽に世界を飛び回ったり、些細な日常に喜びを見出したり、と僕らの知らない世界を経験している人がいる。

その日に本屋で見つけたのが高橋歩『人生の地図』だ。

どんな本かは中身を確認しなかったが、表紙が素敵だった。そう、表紙が。

ピエロのような付け鼻をした子供がゴーグル付きのヘルメットを頭に被り、つぶらな瞳で僕に何かを訴えかけてくる。

それだけで一体感を僕に植えつける。

時間にして数秒、その表紙を眺めた。その数秒という時は僕には長く感じられた。

おわり

内容を確認してみる。

世界各国で撮られたであろう人物や風景の写真があり、その写真に合うように著名人や、はたまた漫画から、はたまた著者が出会った名もなき人、もちろん著者自身の言葉がそこには詰まっていた。

この本は「もっと自分を知るために」というテーマで書かれている。

人は誰も他人のことならそれなりに指摘できるのに、自分のことになると途端にわからなくなる。

もちろん僕もその中の一人であり、

だからか、

その一つひとつの言葉が僕の胸に染み渡った。そう、バケツの水にインクを垂らすと一瞬で水面に広がるかのように。

誰にも未来のことなんてわからない。

僕自信も、年齢を重ねるにつれ、迷い、とまどい、苦しむということが増えてきた。

そんなときにこの本に出会い、さまざまな角度からヒントをくれた言葉や写真に感謝したい。

ときに不安で、ときに喜び、ときに怒り、ときに穏やかに、ときに大切な人たちと感情をぶつけあい些細な中にも幸せを見出す。

当時は生きるということを真剣に考えていたからか、この本に出会えたと思う。

人との出会いも大事だが、本との出会いも大事。

背中を押してくれる言葉がたくさんあることを僕は知った。

借り物の言葉かもしれないけど、友人や大切な人たち、これから出会う人たちにも、活用し救われる場面が、表れるかもしれない。その時には役立とうと思う。

ゆるりと自分というものを考え、人生の岐路に立ったとき、またこの本を開くことだろう。

コーヒーを片手に、煙草をふかし、人生の地図を埋めているはずだ。

自由に、好きなように、自分だけの地図を作ろう。